

インターバンクの声（2017年6月9日）

昨夜のロンドン市場から今日の東京市場の午前中にかけては、政策の変更も考えられた欧州中央銀行 (ECB) 理事会、コミー前 FBI 長官のロシアによる米大統領選干渉疑惑への捜査を巡る議会での公聴会、さらにはメイ英首相が政権基盤の強化を狙って臨んだ英総選挙といった、市場を揺るがす可能性が高いイベントが並んだ。欧州中央銀行は昨夜の理事会で、追加利下げは想定していないとしながら、インフレ率が依然として抑えられているとして、大規模刺激策の維持を表明した。これを受けてユーロが対ドルでやや下落したが、1.12ドル前後の水準は保っている。

次にコミー前 FBI 長官の公聴会。トランプ大統領の捜査への干渉疑惑に関しては新たな情報がなかったとして、市場の反応はほとんどなかった。ただ、メディアが伝えている公聴会の内容からは、トランプ大統領の行動はいかにも不適切に感じられ、短時間で簡単に一件落着とは行かないはずだ。

最後は英総選挙の結果。日本時間の朝 6 時から出口調査が出始めているが、メイ首相率いる保守党の議席が過半数に満たないのではとの一報後は、ポンドが 1.29ドル台中盤から 1.27ドル台に急落した。ポンドが続落するのか回復するのかは、保守党が議席を増やせるかどうかにかかっている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。